

## 国有林等を活用した特用林産振興について

北信地方事務所 林務課 三善 健一

### 要旨

近年林業は、木材の大量輸入による木材価格の低下、国産材生産のコストの増加などが原因となり、収益性が低下するなど、厳しい状況に直面している。

このことは林業、木材産業を主要な産業としている山村の経済・生活に大きな打撃を与えている。

このような厳しい状況の中で、山村の振興を図る一つの方策として、特用林産物を生産し収入の安定化を図った事例を取り上げた。

### 1 はじめに

北信地域で主に生産されている特用林産物は、菌床きのこ、原木きのこ、山菜であり、まずこれらの概要と事例の背景について、記述する。

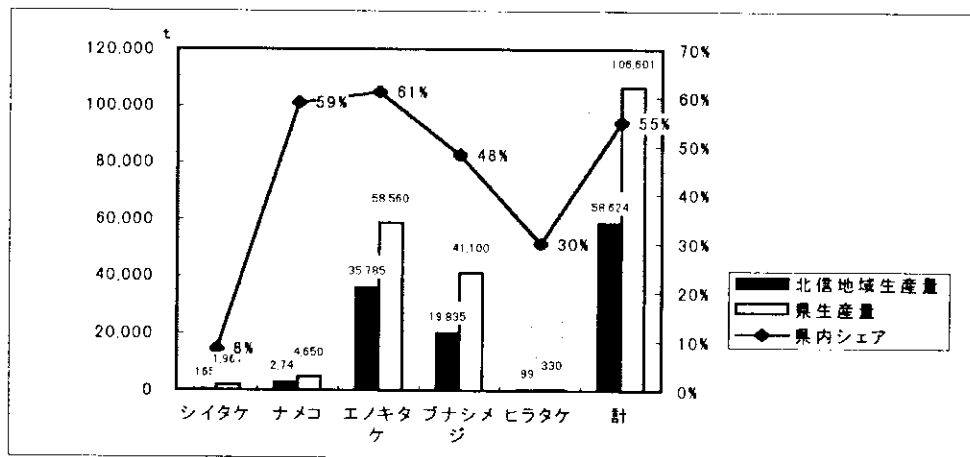
#### (1) 北信地域の特用林産物の概要

##### ア 菌床栽培

きのこ類の生産については、菌床栽培を中心に年間約58,624t、県内シェアは55%で、県内一の生産地となっている。

表一 きのこ類の生産量 (単位：t)

区分	シイタケ	ナメコ	エノキタケ	ブナシメジ	ヒラタケ	計
北信地域生産量	165	2,740	35,785	19,835	99	58,624
県生産量	1,961	4,650	58,560	41,100	330	106,601
県内シェア	8%	59%	61%	48%	30%	55%



きのこ生産のほとんどは、多雪地域の冬期間の就労対策から空調施設による菌床栽培により生産されている。

##### イ 原木きのこ栽培及び山菜類

シイタケ、ナメコは原木栽培をおこなっている。原木シイタケの生産者は飯山市、木島平村を中心に数名程度であり、総じて零細である。また原木ナメコ、山菜類については、木島平村、野沢温泉村、栄村を中心に生産されている。

原木シイタケ	原木ナメコ	わらび	ぜんまい	ふぎ	うど	ねまがり	計
61	38	10	1	8	5	59	182

表－2 原木きのこ栽培及び山菜類の生産量 (単位：t)

## (2) 事例の背景

上記の特用林産物の概要のとおり、きのこ類の生産は北信地域の農林業の中で最も重要な作目となっている。一方山村においては、林木のほとんどは生育の途中であり木材生産による収入は極めて厳しい状況が続いている。このような中、きのこ類、山菜などの特用林産物による収入に期待が高まっている。

しかしながら、きのこ類の生産の中心は空調施設による菌床栽培が主流であり、その施設整備には、億単位の多額の経費が必要であり、零細な農林家にはそれを経営していくことは、極めて難しくなっている。

そこで、生産施設等の整備費用が少ない原木栽培及び山菜栽培に注目した。

## 2 経過

昭和30年ごろから、原木なめこ栽培については野沢温泉村を中心に、また山菜については栄村を中心に栽培がおこなわれている。

特に原木なめこについては、国有林内での生産が主である。このことは、昔から薪炭材、木製品の原材料などを国有林内で収穫していることなど地元と営林署との交流があったこと、また比較的里山の近くに国有林があり、その中に栽培適地があったためである。

昭和30年前半には野沢温泉きのこ生産農事組合が設立され、一方昭和40年代には、栄村山菜組合が設立され、組織的な生産体制を確立している。

また木島平村においては、原木なめこ等を個人生産出荷していた。

## 3 実行結果

経過のとおり、従来から国有林等の利用をしながら、原木なめこ、山菜を生産してきたが、近年、山菜ブームにより山菜、原木なめこの消費ニーズは増加しており、山村の収入源としてますますその役割は大きくなっている。

そこで、補助事業による生産の拡大をおこなった。

表－3 原木なめこ発生環境整備の状況

年度	市町村	事業主体	整備面積(ha)	事業費(千円)
5	野沢温泉村	野沢温泉きのこ生産農事組合	2	1,600
6	木島平村	馬曲山ナメコ事業組合	0.7	2,000
	木島平村	寒種山生産組合	0.5	1,000
	野沢温泉村	野沢温泉きのこ生産農事組合	2	1,600
7	木島平村	馬曲山大久保ナメコ組合	2.5	2,000
	木島平村	馬曲山ナメコ事業組合	0.7	2,000
	野沢温泉村	野沢温泉きのこ生産農事組合	2	1,600
	栄村	小赤沢ナメコ組合	1	600
8	木島平村	馬曲山大久保ナメコ組合	2	2,000
	木島平村	馬曲山ナメコ事業組合	2	2,000
	栄村	小赤沢ナメコ組合	1	600
	計		16.4	17,000



写真-1 原木なめこ栽培地（木島平村）



写真-2 原木なめこ発生状況

表-4 山菜発生環境整備の状況

年度	市町村	事業主体	品目	整備面積(ha)	事業費(千円)
5	栄村	栄村山菜組合	ふき、わらび、うど	0.7	1,200
	栄村	東部開拓事業組合	ふき、わらび、うど	10	1,400
6	栄村	上野原山菜生産組合	ぎょうじゃにんにく	0.2	800
7	木島平村	内山楮生産組合	こうぞ	0.4	600
計				11.3	4,000



写真-3 ぶき栽培地



写真-4 ぜんまい栽培地

表-5 山菜の収量等について

品目	収量(kg/10a)	単価(円/kg)	生産額(円)
ぜんまい	60	9,600	576,000
ぎょうじゃにんにく	450	800	360,000
わらび	500	450	225,000
ねまがりたけ	280	800	224,000
うど	800	800	640,000
たらのめ	150	2,500	375,000

#### 4 おわりに

北信地域はもともと野生の山菜・きのこが多く産出する地域である。実行結果のところ述べたように近年の山菜・きのこブームにより山菜の消費ニーズは増加しており、そのことを利

用した山村での観光や都市との交流が行われている。

しかしながら、山菜・原木きのこは自然発生によるものであり、気象に左右されやすく生産時期、生産量も限られており、いま以上に生産量を確保することはむずかしい。

このことから少しでも安定的に又集約的に生産する必要があり、今後も発生環境整備を行い安定的な生産と収入を図る必要がある。